

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200620		
法人名	医療法人 知誠会		
事業所名	グループホーム アルテピア		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町江尻705-1		
自己評価作成日	令和 6年 2月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 3月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり」、「いっしょに」、「たのしく」をモットーにスタッフ・入居者の方が共に生活が送れる空間を目指しています。重度になられてもご家族の方が安心できる受け入れを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

何気ない会話で笑い合える暮らしが、入居者の生活に豊かさをもたらす大切な要素と考え、日々のコミュニケーション一つひとつを大切に関わっている様子が窺えます。食事面では入居者の要望を汲み取り献立に反映している事や、新たな行事企画に向けた積極的な情報収集等、感染症流行による様々な活動制約がある中でも、入居者の楽しみに力を入れて取り組んでいる様子が見受けられます。非常勤の看護師が勤務している事に加え、同敷地内の介護老人保健施設の看護師とも昼夜問わず医療面の相談が出来る体制があり、入居者並びに家族、ホームで働く介護職員の安心感に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やフロアの目の届きやすいところに掲示して、実践に努めている	年間目標を立て、ホームの理念と共に掲示していますが、職員全員に対して充分には周知できていない様子が見受けられます。	職員が共通の目標に向かって支援に取り組めるように、ホームの理念や目標、ビジョンについて理解を深める機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ワークセンターが週1回アルミ缶やペットボトルの回収に来られる	ホーム周辺の散歩をした際、近所の住民と挨拶を交わしています。現在はコロナ禍で外出や交流に制限がありますが、職員は入居者と共に地域の催しに再び参加できる日を心待ちにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を借りて、事業所の利用状況を話したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて話し合われた意見を職員間で再度話し合い、サービスの向上に向けて生かしている	市町村担当者に加え、家族代表や民生児童委員が出席しており、ホームの取り組みを報告しています。今後さらに参加者が意見を言いやすく、様々な要望を汲み取れる会議となる様に運営の方法を模索中です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を活用し、市町村職員等と協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、事業所の実情を伝えています。運営上の不明点はその都度、関係機関に連絡を取り解決しており、市町村担当者とも相互に相談しやすい関係性が構築出来ている様子が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なくケアに取り組んでいる	本人の行動を静止しないことを基本として、不安や混乱を招かない関わりを心掛けています。歩行能力の低下による転倒等、起こりうるリスクを早期から家族と共有するように努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用の方が入居されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて説明・相談・同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状況に応じて家族の方と話し合ったり、1年に1度の家族交流会を開催される(但し、現在コロナ禍にて延期している)	会話の中から本人の要望を引き出す様に聞き方を工夫しています。面会は感染症対策の為、玄関先となっておりますが、その際、職員も本人の日常の様子を伝えており、意見や要望を表しやすい配慮が窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、月に1回のグループホーム会議を開催して情報の共有や意見の反映を行っている	管理者は指示・命令で業務を遂行するのではなく、職員一人ひとりの意向や考えを汲み取り、反映させる運営を目指しており、日頃から職員との対話機会を持つ事を大切にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の内外で開催されている勉強会や研修会に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修会等を通じて、交流に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接等で生活状況などを把握するように努め、ご本人の求められている事や不安への理解に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の要望を傾聴し、どのような対応が出来るか事前に話し合いをして関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の方の意向を踏まえ、必要な支援につながる様、すり合わせ対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送り、一緒に楽しく過ごしていただける環境作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をその都度、報告や相談することで、家族と情報を共有するよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたりする近隣を散歩されたりしている 玄関スペースでの面会や、携帯電話で話されている	入居者が手紙を出したいと希望した場合、事務局の協力を得て実現できるように取り組んでいます。新たに入居した方の紹介を職員と一緒に進める等、ホームで馴染みの関係を築く為の配慮が見受けられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を共有して支援することに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が契約終了しても、連絡を取り合ったりして相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中で、声掛けしたり、傾聴したりして、ご本人の意向の把握に努めている	嗜好や趣味・特技の情報収集を大切にしています。本人の暮らしの意向は、入浴など個別にゆっくりと関われる場面で聞き取っており、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご家族の方やご本人に在宅での様子をお聞きし、人生の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わりの中で、一人一人の生活リズムや状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で、ケアの在り方等相談や検討したり、本人や家族の意向を傾聴したりして、現状に即した介護計画作成に努めている	計画作成者は本人や家族の意向を踏まえ、職員の気付きやアイデア、主治医等の関係者の意見も反映し、現状に即した介護計画となる様に努めている様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを活用し、食事量・水分量・排泄等日々の状態を記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、その都度より良いサービスが出来るよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、地域包括支援センターの職員の方が地域の情報を提供してくれたり、民生委員の方が身近な情報を教えてくださる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が在宅受診されていた医院を継続して受けられるよう支援している 月1回の訪問診療を受けている	関連法人である岩藤胃腸科外科歯科クリニックが主治医となっています。眼科等の他科受診の際は、家族の協力を得て受診に行く際には家族に生活の様子を伝え、適切な医療を受けられるように取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の健康管理や医療面での相談や助言・受診等受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いを行い、なじみの関係が途切れないよう声掛け、退院支援に結び付けていく		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師・看護師・介護士が連携を図り、安心して最期を迎えられるように取り組んでいる	入居時に書面を用いて重度化や終末期に向けた意向の確認を行っています。また、状態変化時には改めて本人家族を交えた話し合いを行い、気持ちの変化も尊重した検討が行える様に努めています。医療面において隣接する介護施設の協力体制がある事が職員の安心感にも繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを整備し、定期的に勉強会を催し、周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定避難訓練を行っている 土地柄、冠水がみられ水害等を含め、老健と協力体制を築いている	避難訓練は入居者の混乱を招かない事を優先し、屋外までの避難誘導は行わず、避難経路や手順の確認を繰り返し実施しています。避難経路上に勾配の急な斜面がある為、実際に避難するとした場合、安全な避難誘導が行えるか少し不安を感じている様子も見受けられました。	入居者の混乱を招かない配慮も大切ですが、無理のない範囲で協力を得ながら、職員全員が落ち着いて安全な避難誘導が行える事を目指したより実践的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、本人の気持ちを大切にしたケアを心がけている	薬の内容をあまり知られたくない入居者もいると推察し、配薬や処置は周囲の状況に配慮しながら提供しています。日々のコミュニケーションでは、相手の気持ちを考えた言葉選びを大切にしており、プライバシーや人格への配慮が見受けられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の表情や反応をとらえ、自己決定出来るように声掛け、傾聴に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の生活の流れを配慮しながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが保てるように努めている 2か月に1回、外部の散髪業者が入る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理の際、希望される物を聞いて対応している 季節の食材を取り入れたり、歳時記に合わせた工夫をしている	お盆拭き等を入居者と共に行っており、入居者の力を活かしながら準備や片付けを行っている姿が窺えます。入居者の要望を献立に反映する取り組みや、新たなイベント企画に力を入れている様子が見受けられます。	入居者一人ひとりの要望を汲み取りながら、食事を楽しむことのできる支援が今後さらに充実する事に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日々の体調を考慮し一日の摂取量の把握に努めている 必要に応じて栄養補助食品を利用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分ででは、声掛け・見守り確認を行い、出来ない方は介助にて口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じてトイレ誘導・声掛けなどを行い、排泄できるように支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄習慣の把握に努めています。一人ひとりのタイミングに応じた誘導や声掛けを行う事で、トイレでの排泄の自立に向けたケアに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や適度な運動、飲食物の工夫に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行い、日々の入浴支援に努めている	基本的に曜日や時間帯、回数を決めていますが、保清が望ましい状況には臨機応変に対応しています。入浴中は職員との会話で笑い合える等、楽しい時間となる様に取り組んでいる様子が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣を考慮して、ペースにより離床臥床を促したり、お昼寝される夜は眠くなるまでゆっくりフロアで過ごされたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は2人で確認し、本人の前では三点確認するなど十分に注意している 処方変更には、申し送り確認に努めている セット時には、名前・日付・時間の確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯物を干したりたたんだり、それぞれに出来る事をスタッフと一緒に取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と外出され食事に行かれたりしている 外出され地域の行事に参加されたりしている(現在コロナ禍にて行事参加は控えている)	感染症対策の為、人の集う場所への外出は控えています。天候の良い日はホーム周辺の散歩に出掛けています。屋内では、机上作業(塗り絵やパズル、折り紙等)の活動を充実させる事で、気分転換が図れる機会作りに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をいくらか所持され、身の回りの物や欲しい物を買ったりされる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され連絡されたり手紙を書かれたりされる 毎日、日記を付けられる方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と花を生けたりカレンダーを作ったり、季節の物を飾ったりレクリエーションで作った物を飾り、日々の生活の中で変化に努めている	穏やかな雰囲気が感じ取れる共有空間は、大きな窓からの景色とホーム内の装飾によって、季節を感じやすい環境となっています。リビングの日当たりの良さから、日向ぼっこをしながら昼寝する事を楽しみの一つにしている入居者もいると話を伺いました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳コーナーがあり、窓側には景色を眺めながら椅子に座ってくつろぐことの出来る空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物などを置き本人の居心地がいい空間作りに努めている 出来る事を手伝っていただいている	ダンスや机など、一人ひとりが馴染みの品物を持ち込み、居室空間が居心地良く過ごせる環境となる様に工夫している様子が見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、それぞれの机上作業を提供するよう工夫している		